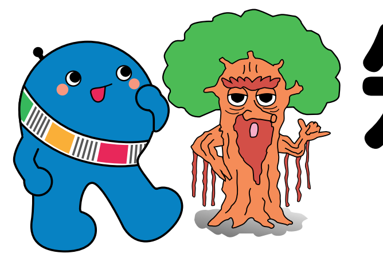


地域の沖縄戦 知ろう！ 本島南部編

住民と軍一緒 悲劇数々

20万人余りが犠牲になった沖縄戦から71年。4週連続で特集している「地域の沖縄戦知ろう！」第3回は沖縄本島南部地域を紹介します。沖縄戦の激戦地・八重瀬町、南城市、与那原町、糸満市についてりゅうちゃんと、長年沖縄に根を張り、自然を愛する「がじゅまーる」さんが案内役となって解説します。友だちや周りの大人たちと地域の戦争を学んで、戦跡を巡ってみませんか。

八重瀬・南城 与那原　日本軍が住民追い出す

今の読谷村の辺りから沖縄本島に上陸した米軍。日本軍は首里で降伏せずに、南部に撤退したよね。南部も激しい戦いがあったのかな？

犠牲者は南部に行くにつれ、増えていったのが特徴さぁ。米軍は本島に上陸する前の1945年3月30日に、具志頭村（現八重瀬町）を海上から攻撃した。上陸する場所を具志頭村だと見せかけたんだ。だけど、米軍は読谷山村（現読谷村）付近から上陸して、日本軍の防衛線を次々に破って南下した。いよいよ首里城地下にある日本軍の司令部に迫り、司令部を守るために東西に配置した日本軍の最後の防衛ラインに到達した。西は現在の那覇市天久、真嘉比、安里。東は今の西原町、与那原町だね。だからこの地域の戦闘は激しかったんだね。

今の与那原町の北の方にある運玉森は、その時に日米が激しく戦った場所なんだよ。激しく砲撃し合う戦いを5月13日から8日間、昼も夜も続けた。その結果、米軍が占領した。あたり一面は焼け野原になったさぁ。

多くの住民も巻き込まれたのかな？

そうさ。日本軍が南部撤退を決めた頃、住民も知念半島に避難するように言われていたけど、その命令は行き届いていなかったし、混乱していた。南部には各地に自然の壕や、人が掘った壕が多くある。迫り来る米軍と砲撃に追われるように、住民は壕に逃げた。だけど、首里から南下した日本軍が「壕を使うから」と言って住民を追い出したり、食料を奪ったりした。スパイ容疑で殺害された人や、強制集団死（「集団自決」）に追い込まれた住民もいたし、逃げ惑う中、砲撃にやられた人もいた。

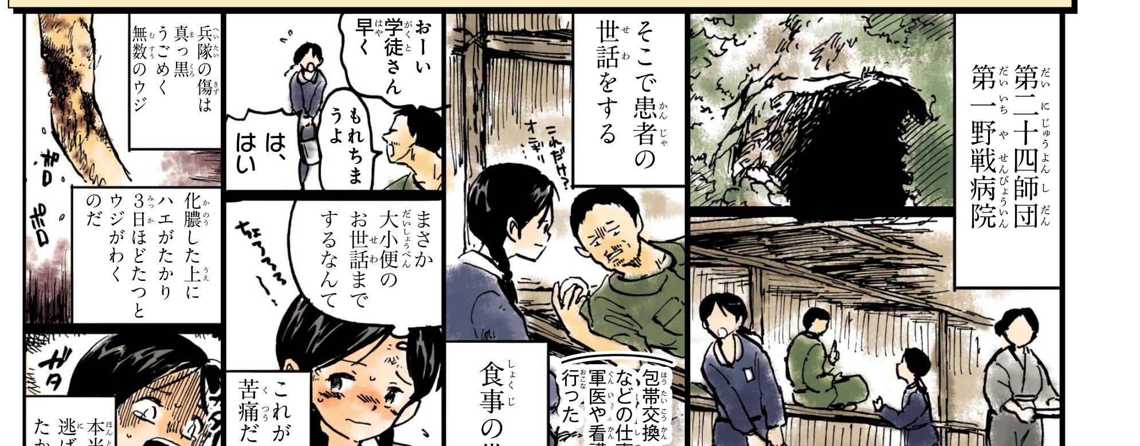
一方、日本軍がいなかった知念半島、現在の南城市の東側は日米の激戦とはならずに、犠牲者が少なかったんだ。でも、南へ南へと逃げ続けた住民は、日米の戦いの巻き添えになったんだよ。

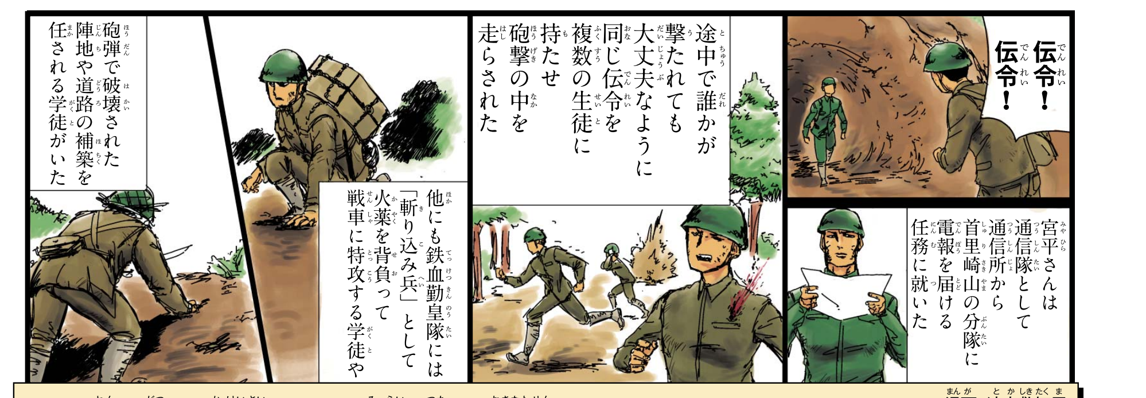
当時の子どもはどうだったんだろう？

沖縄戦当時は、10代の子どもや若者たちも沖縄戦の巻き添えとなったよ。学徒隊って聞いたことあるかい？　日本軍は、10代の若者たちも、戦力として扱った。「沖縄師範健児の塔」や「ひめゆりの塔」「白梅の塔」は、戦争に巻き込まれて犠牲になった若者たちを慰霊するために建てられたんだ。

南部戦線で傷を受けて座り込んでいる子ども（1945年6月21日）
＝平和祈念資料館提供

2015年6月21日掲載「まんが 未来に伝える沖縄戦」より（体験者・中山きくさん／当時16歳）　漫画・芋べエ

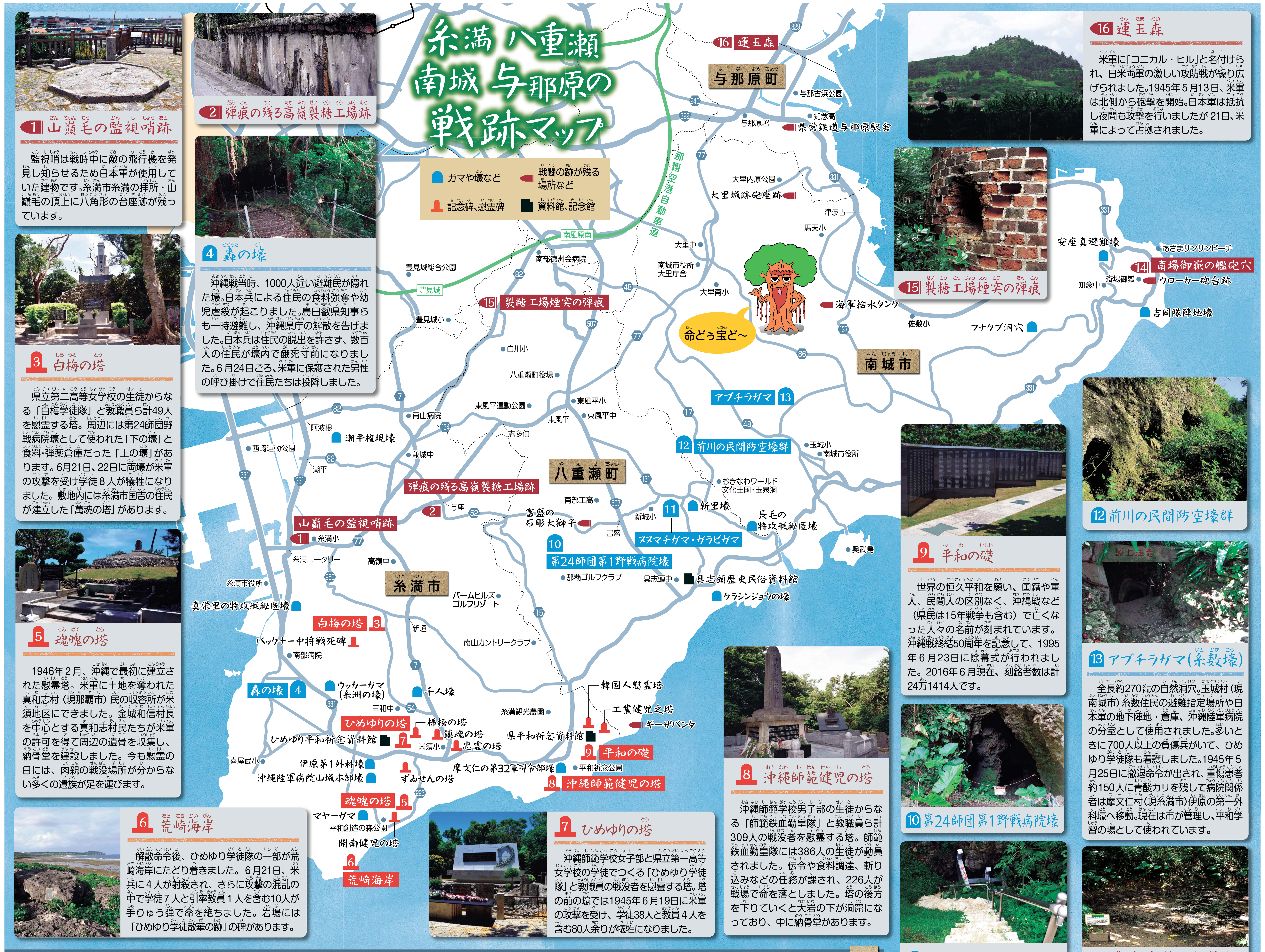

第二十四師団 第一野戦病院
そこで患者の世話をする
包帯交換などの仕事は軍医や看護婦が行った
食事の世話
おーい学徒さん早く
もれちまうよ
は、はい
まさか大小便のお世話までするなんて
これがとても苦痛だった
兵隊の傷は真っ黒うごめく無数のウジ
化膿した上にハエがたかり3日ほどたつとウジがわくのだ
ポロ
ポロ
ガタ
本当に逃げ出したかった


伝令！
伝令！
宮平さんは通信隊として通信所から首里崎山の分隊に電報を届ける任務に就いた
途中で誰かが撃たれても大丈夫なように同じ伝令を複数の生徒に持たせ砲撃の中を走らされた
他にも鉄血勤皇隊には「斬り込み兵」として火薬を背負って戦車に特攻する学徒や
砲弾で破壊された陣地や道路の補築を任される学徒がいた

2016年1月24日掲載「まんが 未来に伝える沖縄戦」より（体験者・宮平盛彦さん／当時14歳）　漫画・渡嘉敷拓馬 福地直也

ズーム

学徒動員　沖縄戦当時、日本軍は兵士が不足しており、10代の子どもも戦争にかり出されました。県内の師範学校や中学校の男子生徒（14～17歳）のうち、上級生は「鉄血勤皇隊」として、軍の物資を運んだり、食料を調達したりしました。なかには爆弾を抱えて、米軍の戦車に突撃させられた者もいました。下級生は、戦争の状況などを伝える電報を運ぶ通信隊に入れられ、砲撃の中を走り回らなければいけませんでした。一方、女子学生は看護要員として動員されました。壕に設けた野戦病院で負傷した日本兵の手当てや世話をしなければいけませんでした。


糸満 八重瀬 南城 与那原の 戦跡マップ
ガマや壕など
戦闘の跡が残る場所など
記念碑、慰霊碑
資料館、記念館
16 運玉森
与那原町
与那古浜公園
与那原署
知念高
県営鉄道与那原駅舎
大里内原公園
大里城跡砲座跡
津波古
馬天小
那覇空港自動車道
南風原南
豊見城
南部徳洲会病院
豊見城総合公園
大里中
南城市役所大里庁舎
大里南小
15 製糖工場煙突の弾痕
豊見城小
白川小
八重瀬町役場
命どぅ宝ど～
海軍給水タンク
佐敷小
フナクブ洞穴
南城市
安座真避難壕
あざまサンサンビーチ
14 斎場御嶽の艦砲穴
知念中
斎場御嶽
ウローカー砲台跡
吉岡隊陣地壕
東風平運動公園
東風平小
東風平
東風平中
南山病院
阿波根
潮平権現壕
西崎運動公園
兼城中
潮平
志多伯
アブチラガマ 13
12 前川の民間防空壕群
玉城小
南城市役所
八重瀬町
弾痕の残る高嶺製糖工場跡 2
与座
南部工高
おきなわワールド文化王国・玉泉洞
富盛の石彫大獅子
新城小
11 ヌヌマチガマ・ガラビガマ
新里壕
長毛の特攻艇秘匿壕
山巓毛の監視哨跡 1
糸満小
富盛
奥武島
糸満ロータリー
高嶺中
10 第24師団第1野戦病院壕
那覇ゴルフクラブ
具志頭中
具志頭歴史民俗資料館
クラシンジョウの壕
糸満市
糸満市役所
パームヒルズゴルフリゾート
真栄里の特攻艇秘匿壕
新垣
白梅の塔 3
バックナー中将戦死碑
南部病院
南山カントリークラブ
轟の壕 4
ウッカーガマ（糸洲の壕）
千人壕
三和中
韓国人慰霊塔
工業健児之塔
ギーザバンタ
糸満観光農園
ひめゆりの塔 7
梯梧の塔
鎮魂の塔
ひめゆり平和祈念資料館
米須小
忠霊の塔
県平和祈念資料館
9 平和の礎
喜屋武小
伊原第1外科壕
沖縄陸軍病院山城本部壕
ずゐせんの塔
摩文仁の第32軍司令部壕
平和祈念公園
8 沖縄師範健児の塔
魂魄の塔 5
マヤーガマ
平和創造の森公園
開南健児の塔
6 荒崎海岸

1 山巓毛の監視哨跡

監視哨は戦時中に敵の飛行機を発見し知らせるため日本軍が使用していた建物です。糸満市糸満の拝所・山巓毛の頂上に八角形の台座跡が残っています。

2 弾痕の残る高嶺製糖工場跡

3 白梅の塔

県立第二高等女学校の生徒からなる「白梅学徒隊」と教職員ら計49人を慰霊する塔。周辺には第24師団野戦病院壕として使われた「下の壕」と食料・弾薬倉庫だった「上の壕」があります。6月21日、22日に両壕が米軍の攻撃を受け学徒8人が犠牲になりました。敷地内には糸満市国吉の住民が建立した「萬魂の塔」があります。

4 轟の壕

沖縄戦当時、1000人近い避難民が隠れた壕。日本兵による住民の食料強奪や幼児虐殺が起こりました。島田叡県知事らも一時避難し、沖縄県庁の解散を告げました。日本兵は住民の脱出を許さず、数百人の住民が壕内で餓死寸前になりました。6月24日ごろ、米軍に保護された男性の呼び掛けで住民たちは投降しました。

5 魂魄の塔

1946年2月、沖縄で最初に建立された慰霊塔。米軍に土地を奪われた真和志村（現那覇市）民の収容所が米須地区にできました。金城和信村長を中心とする真和志村民たちが米軍の許可を得て周辺の遺骨を収集し、納骨堂を建設しました。今も慰霊の日には、肉親の戦没場所が分からない多くの遺族が足を運びます。

6 荒崎海岸

解散命令後、ひめゆり学徒隊の一部が荒崎海岸にたどり着きました。6月21日、米兵に4人が射殺され、さらに攻撃の混乱の中で学徒7人と引率教員1人を含む10人が手りゅう弾で命を絶ちました。岩場には「ひめゆり学徒散華の跡」の碑があります。

7 ひめゆりの塔

沖縄師範学校女子部と県立第一高等女学校の学徒でつくる「ひめゆり学徒隊」と教職員の戦没者を慰霊する塔。塔の前の壕では1945年6月19日に米軍の攻撃を受け、学徒38人と教員4人を含む80人余りが犠牲になりました。

8 沖縄師範健児の塔

沖縄師範学校男子部の生徒からなる「師範鉄血勤皇隊」と教職員ら計309人の戦没者を慰霊する塔。師範鉄血勤皇隊には386人の生徒が動員されました。伝令や食料調達、斬り込みなどの任務が課され、226人が戦場で命を落としました。塔の後方を下りていくと大岩の下が洞窟になっており、中に納骨堂があります。

9 平和の礎

世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦など（県民は15年戦争も含む）で亡くなった人々の名前が刻まれています。沖縄戦終結50周年を記念して、1995年6月23日に除幕式が行われました。2016年6月現在、刻銘者数は計24万1414人です。

10 第24師団第1野戦病院壕

11 ヌヌマチガマ・ガラビガマ

第24師団の第一野戦病院の分院となった自然壕です。白梅学徒隊も看護要員としてガマにいました。1945年4月以降、米軍との戦闘で負傷した日本兵が運ばれました。5月には、負傷兵は1000人以上。米軍に追い詰められて病院が閉鎖される時、傷が治らない日本兵に青酸カリが配られ、青酸カリを飲んでも死なない負傷兵は銃を向けられて命を落としました。

12 前川の民間防空壕群

13 アブチラガマ（糸数壕）

全長約270㍍の自然洞穴。玉城村（現南城市）糸数住民の避難指定場所や日本軍の地下陣地・倉庫、沖縄陸軍病院の分室として使用されました。多いときに700人以上の負傷兵がいて、ひめゆり学徒隊も看護しました。1945年5月25日に撤退命令が出され、重傷患者約150人に青酸カリを残して病院関係者は摩文仁村（現糸満市）伊原の第一外科壕へ移動。現在は市が管理し、平和学習の場として使われています。

14 斎場御嶽の艦砲穴

琉球王国最大の聖地で、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のひとつ、斎場御嶽に残る艦砲射撃を受けた跡。底の深いフライパン状の窪地で、直径12.6～13.6㍍、深さは約2㍍にもなります。戦後、沖縄の至る所にあった艦砲穴の大半は埋められるなどして残っておらず、沖縄戦の厳しさを知る重要な戦跡となっています。

15 製糖工場煙突の弾痕

16 運玉森

米軍に「コニカル・ヒル」と名付けられ、日米両軍の激しい攻防戦が繰り広げられました。1945年5月13日、米軍は北側から砲撃を開始。日本軍は抵抗し夜間も攻撃を行いましたが21日、米軍によって占拠されました。

沖縄戦の主な出来事

1941年8月	中城湾臨時要塞の建設開始。10月工事完了
44年3月22日	第32軍創設
8月22日	疎開船対馬丸が悪石島付近で米潜水艦の攻撃を受け撃沈
10月10日	10・10空襲で馬天港に被害。旧与那原警察署の後ろに爆弾が落ち、警察官3人死亡。久高島沖や中城湾で操業中の漁師死亡
45年3月	学徒隊が編成、配属される
23日	米機動部隊が本島への爆撃開始
24日	県立第二高等女学校の学徒隊（白梅学徒隊）が、八重瀬岳の陸軍第24師団第一野戦病院に配置
26日	米軍が阿嘉島、慶留間島、座間味島に上陸。強制集団死（「集団自決」）が発生
27日	米軍が渡嘉敷島に上陸。28日に強制集団死（「集団自決」）発生
30日	米軍、具志頭村港川方面に砲撃
4月1日	米軍が北谷・読谷海岸に上陸
1日、2日	米軍上陸陽動作戦部隊が港川の沖合に集結。港川の海岸に猛烈な艦砲射撃
27日	玉城村糸数のアブチラガマが陣地としての役割を終え、28日から沖縄陸軍病院糸数分室となる。ひめゆり学徒隊がアブチラガマに移動
5月21日	米軍、運玉森をほぼ占領。与那原は壊滅
22日	第32軍、南部撤退を決定。米軍が与那原に侵攻
6月16日	米軍が与座岳攻略
18日	バックナー中将、真栄里で戦死
19日	サキアブの沖縄陸軍病院本部解散。ひめゆり学徒隊、伊原第3外科壕で多数死亡。第62師団野戦病院が解散
22日	牛島司令官が自決。沖縄での組織的戦闘が終了（23日の説あり）
6月	与那原・現大見武に米軍部隊が駐屯。後に大見武収容所となり、与那原、南風原住民が収容される。玉城村百名区に孤児院、養老院設立
8月6日	広島に原爆投下
9日	長崎に原爆投下
15日	天皇がポツダム宣言受諾をラジオ放送（玉音放送）
9月7日	第32軍が降伏文書に調印
46年2月27日	真和志村民「魂魄の塔」建立
4月5日	真和志村長の金城和信氏ら「ひめゆりの塔」建立
9日	金城和信氏ら「健児の塔」建立

糸満　司令官死後も戦い続く

糸満市は平和祈念公園やひめゆりの塔など戦跡がたくさんありゅよね。

そうだねぇ。当時は真壁、喜屋武、摩文仁の3村だった地域は沖縄戦最後の激戦地。多くの人が、南部で命を落としたんだよ。

1945年5月21日夜、日本軍は作戦会議を開き、南部に撤退することを決めた。日本本土で決戦をするまでの時間稼ぎをしようという作戦さぁ。日本軍の武器や弾薬はなくなり、軍隊として戦う力もなくなっていたけど、1日でも長く、米軍を沖縄に引きつけておこうとしたんだよ。

住民も南部に逃げている人が多かったよね？

現在の糸満市一帯は沖縄戦当時、多くの住民が逃げていた。さらにもともと住んでいた地元の人、どんどん南下してくる日本軍、それを追う米軍。南部は軍も民間人もいる混乱した戦場になったんだよ。

6月11日の午後5時、米軍の第10軍司令官バックナー中将は日本軍に降伏するように呼び掛けた。けれども日本軍は降伏しなかった。6月18日にバックナー中将が戦死したんだ。すると、住民、軍人を問わない米軍の無差別攻撃は激しくなった。

6月22日、日本軍第32軍の司令官・牛島満が摩文仁で自決した。米軍は7月2日に「琉球方面作戦」の決着を宣言した。だけど、それで戦闘は終わらなかった。牛島満は「最後の一兵まで戦え」と言い残して自決していた。だから、日本兵たちは降参せず、米軍も攻撃し続け、掃討戦が続いたんだ。

日本軍の司令官がいなくなっても戦争は終わらなかったんだね。

当時、日本軍は兵士が降伏したり民間人が米軍に保護されたりすることを禁じていた。追い詰められた人たちは自ら海に身を投げたり、手りゅう弾を爆発させたりして強制集団死（「集団自決」）に追い込まれていったんだ。今の糸満市の北西部は戦争で亡くなった人の割合は比較的低いけど、中部と東部では高い。日米の激戦があった地域や日本軍が最後まで立てこもった地域は、住民も多くの人が命を失ったんだよ。

登場するのは…
がじゅまーるさん
自然や歴史について詳しい、実は樹齢500年のガジュマル。のんびりしているが怒ると葉の色が変わる。沖縄の黄金言葉が口癖。

壕追い出され転々

実家に戻り生き延びる

山城　タケさん（糸満市波平、78歳）

米軍上陸後、私と祖父と母と弟と妹の5人は南波平の部落内にあるサーターヤー壕に避難した。ある日、製糖機を高射砲と間違えたのか米軍が製糖機目掛けて爆弾を落とした。近くにはガジュマル並木があり、爆撃後に見ると木の枝に靴を履いたままの足や肉片がぶら下がっていた。

戦争が激しくなったころ、日本兵が担架に負傷兵を乗せて壕にやって来た。「軍が使うので早く出なさい」と言って私たち住民を追い出した。私たち一家は急いで糸洲部落のウッカーガマに向かったが、ガマはすでに地元民でいっぱいで、隠れる場所がなかった。壕の奥は水が流れていて座ることができない。仕方がないので私たちは入り口の辺りに立っていた。

数日隠れたが、祖父が「どうせ死ぬなら自分の部落で死のう」と言うので南波平の祖父の実家に戻った。屋敷内の木と木の間に石積みの囲いを作って隠れた。

妹と弟が小さかったので食料調達は私の仕事だった。夜に急須を持って井戸に水くみに行くと、泥まみれの足のない兵隊が水を欲しがったので急須で飲ませてあげた。道は死体だらけで体が膨れ上がっていた。

ある日、日本兵がやって来て「着物を貸してほしい。どうせ日本は負けるから民間人の服に着替える」と言ってきた。母は女性用の着物を1枚渡した。

私たちは部落内で米軍に保護されて生き延びたが、南に逃げた部落民たちは避難場所がなく、やられてしまったようだ。

◇山城タケさんの証言は、2015年6月26日付18面「沖縄戦70年　戦場をたどる　市町村の沖縄戦⑤」から再掲載しました。

◇「ビジュアル版　地域の沖縄戦知ろう！」は「琉球新報ＮＩＥルーム」のホームページからダウンロードできます。平和学習にご活用ください。